

REPORT
2007
9/26
午後

Yee Hong Center

[イーホン センター]

老人



豊かな老後を支援するためのさまざまな工夫

福岡県 船小屋荘 三塩清子

最初に視察したモジヘルスケアソサエティでは、必要に応じた適切なサービスやプログラム・住居を提供し、より豊かな老後を作り上げるお手伝いをすることが目的となっていた。日本のケアハウスが在宅支援事業を地域の中に提供している仕組みと似ている。カナダも日本と同じく高齢者支援に共通していることは、可能な限り在宅生活を支援する個別ケアの実施と介護予防への取り組みである。管理下に医療設備のあるナーシングホームや介護の必要な方が入居可能なシニアホームがある。またイーホンセンターと連携されており、より医療が必要になった人が利用できるようになっている（日本の特養と似ている）。

イーホンセンターを視察し感じたことだが、わが国の軽費老人ホームの補助金制度と相通ずるところがある。私どもの法人においても建て替え後はケアハウスへと移行することで計画を進めているが、今まで軽費老人ホームが果たしてきた役割は、社会のニーズに応え、ある意味においては、生活の救済的な援助であった。低額な料金で安心して人並みの暮らしができる場所として35年間役割を果たしてきたが、時代が変わろうとも軽費老人ホームのニーズは変わらないとカナダ施設見学で感じたと同時に、社会福祉法人の根本的な使命を改めて感じた。

その他に印象に残った点として、モンリオールの地域住民サービスセンターCLSCは公的施設のためかハード面、ソフト面において独自の工夫が見られた。

- ・おもてなしのお菓子がボランティアの手作りであった。
- ・利用者の部屋は狭いがこざっぱりして個性的な支援が感じられた。



特浴場

- ・ユニット横の13㎡くらいの特浴室の設置には、なるほどと感心した。その理由は、浴槽が場所をとるために部屋の真ん中の対角線上に置かれ、合理的な配置に思わず唖った。個別ケアが随時実施されている証である。この場合は2名で介助にあたっていると想像する。
- ・建物の中に街並みを最小限表現したハード面の工夫、雑貨店・郵便局・美容室・ガーデンハウス・標識・託児所などの生活観を彷彿できる工夫に感心した。

以上4つのことをあげたが、3つ目の特浴場は日本の入浴のあり方からすれば大いに考察に値するハード面ではないだろうか？ 個別ケアの観点から考えるならば、流れ作業的な集団入浴（特養）はすべきではないと考える。利用者のために無駄なお金をかけずにソフト面・ハード面への工夫は利用者の豊かな生活への支援と受け止めた。心のぬくもりが実感できたCLSCであり、一番印象に残った。